

国語科

教科名	国語科	科目名	古典
科目の目標	古典としての古文と漢文を読む能力を養うとともに、ものの見方、感じ方、考え方を広げ、古典に親しむことによって人生を豊かにする態度を身につける。		
履修学年	3年	類型	理系
単位数	3単位	履修形態	必修
教科書	精選古典B 古文編/漢文編 (明治書院)	副教材等	新精選古典文法改訂版(東京書籍)、漢文必携 (桐原書店)、古文単語帳マスター333(数研出版)

①学習の目標

- (1) 文章や作品に表れた人間、社会、自然などに対する思想や感情を読みとり、ものの見方、感じ方考え方を豊かにする。
- (2) 文章や作品の表現上の特色を理解し優れた表現に親しむ。
- (3) 古典を読んで、日本文化の特質や日本文化と中国文化の関係について考える。

②学習内容と授業の進め方

- (1) 古文や漢文に用いられている語句の意味、用法及び文の構造を理解する。
- (2) 文章や作品の内容を構成や展開に即して的確にとらえる。
- (3) まとまった文章理解につとめ、文章に表れた人間、社会、自然などに対する思想や感情を表現に即して読み、味わう。
- (4) 古典常識にも理解を深め、文章の構成を確かめたり、表現の特色をとらえたりする。
- (5) 作品の成立や評価についても探求し、日本文化の特質や、日本文化と中国文化の関係について考える。
- (6) 自ら読み取った思想や感情などについて、感じ、考えたことを文章にまとめ、発表する。

③学習に当たっての留意点

- (1) 常に主体的に学習に取り組むことを心がけ、古文では、①音読、②本文書写、③口語訳を、漢文では、①音読、②本文書写、③書き下し文、④口語訳の予習を怠らないこと。
- (2) 様々な表現技巧、語句、語彙について辞書や便覧などで調べ、読解に役立てるとともに、文章成立の歴史的背景への理解を深めること。
- (3) 授業では、予習時の不明点の解明と共に、現代文と意味・用法の異なる古文・漢文の語彙・文法事項の習熟に力を入れること。
- (4) 文法事項の学習に当たっては補助教材を活用し、計画的・体系的な知識の習得に努めること。
- (5) 小テスト等にも意欲的に臨み、課題等は期限を守って確実に提出すること。

④評価の観点

- (1) 「関心・意欲・態度」【関】
 自らの国語力の向上を図るため、予習・復習をしっかりと行い、授業に関しても、その内容を積極的に理解し、自らを高めようとする姿勢が見受けられることを基本とする。様々な課題に関しても、取り組みが充分であり、自主的に質問をしたりするなど、理解しようとする態度も評価する。さらに、教材や作者に関して主体的に調べたり、発展的に学習を進めたりすることができることが望ましい。
- (2) 「話すこと・聞くこと」【話】
 「話すこと」に関しては、目的や場に応じて、自分の意見を述べるができることを基本とする。さらに、様々な問題について自分の考えをまとめ、構成を考え、筋道立てて相手に分かりやすく話すことができることが望ましい。また、「聞くこと」に関しては、まとまった長さの説明を聞いて、内容を正確に理解できることを基本とする。さらに、その内容に共感したり、問題点を指摘したりすることができることが望ましい。
- (3) 「書くこと」【書】
 誤字・脱字や、主述や文脈の乱れがなく、相手や目的に応じて言葉や文体を使い分けて書くことができることを基本とする。さらに、論理的な構成を工夫したり、効果的な表現を交えて書くことができることが望ましい。
- (4) 「読むこと」【読】
 表現に留意して、様々な文章の内容を読み取り、ものの見方・感じ方・考え方を広げ、描かれた人物・情景・心情などを味わっていくことができることを基本とする。さらに、難解な文章でも文脈に即して的確に読み取り、自らの考えを深めていくことができることが望ましい。

(5) 「知識・理解」【知】

古今の様々な文章の読解を通して、語彙・文法・表現・文学史等を理解し、今後の文章読解・鑑賞・表現に役立てられる知識として蓄積することを目指す。

⑤評価の方法

「関心・意欲・態度」「話す・聞く能力」「書く能力」「読む能力」「知識・理解」の5つの観点で、以下の学習の状況を総合的に評価する。

- (1) 学習活動に対する取組姿勢
- (2) 提出された課題の内容
- (3) 定期考査、課題テスト及び小テストの結果

⑥授業計画

月	単元名	具体的な学習内容	評価の方法など（観点項目を記入）
4	本文内容をより深くとらえよう → 深くとらえるための視点として、より早く読みとらせることなどを意識させる単元	古文評論 「もののははれの論」 「秘する花を知ること」 等	自ら繰り返し音読し、文語文の表現、語彙に慣れたか。【関】 語彙・語法・文法・表現の特徴などを理解できたか。【知】 漢文訓読法に習熟できたか。【知】
5		古文歌物語 「狩りの使ひ」 等	辞書・参考資料を活用し、効果的な予習・復習に努めたか。【関】【書】 古人のものの見方、考え方、感じ方を理解できたか。【知】
6		漢文小説 「離魂記」 等	史伝に親しみ、作中人物像に迫ることができたか。【知】 場面を理解し、含意を汲み取ることができたか。【知】 【前期中間考査】
7	本文を品詞分解しながら、内容を読みとらえる → 用言と助動詞を文法的に説明できるように、および、古文の特徴を意識させる単元	漢詩 「遊山西村」 等	自ら繰り返し音読し、文語文の表現、語彙に慣れたか。【関】 語彙・語法・文法・表現の特徴などを理解できたか。【知】 漢文訓読法に習熟できたか。【知】
8		古文歴史物語 「花山天皇の退位」 等 古文日記 「町の小路の女」 等	辞書・参考資料を活用し、効果的な予習・復習に努めたか。【関】【書】 古人のものの見方、考え方、感じ方を理解できたか。【知】 作中人物の心理を捉えることができたか。【知】 漢文に親しみ、異なる文化の差異に着目できたか。【知】 【前期期末考査】
9	文章の特徴を考えよう → 大学入試テキストにおける傍線部の意味などを考えさせる単元	古文評論 「紫式部」 等	自ら繰り返し音読し、文語文の表現、語彙に慣れたか。【関】 語彙・語法・文法・表現の特徴などを理解できたか。【知】 漢文訓読法に習熟できたか。【知】
10		漢文思想 「荘子」 等	辞書・参考資料を活用し、効果的な予習・復習に努めたか。【関】【書】 古人のものの見方、考え方、感じ方を理解できたか。【知】 主題を捉え、筆者の主張をつかむことができたか。【知】 中国古代の思想に触れ、視野を広げることができたか。【知】
11			【後期中間考査】
12		大学入試に向けた演習 (別途センター試験向け問題集を使用する)	
1		・各期とも、古文単語、古典文法、漢文句形、漢文語彙・文学史等の学習を進め、小テストを実施する。	